

令和2年度宮城県立高等学校入学者選抜審議会 第2回専門委員会 記録

令和2年10月27日（火）10:00～12:20
県行政庁舎16階 1601会議室

＜審議会委員＞

田端 健人 委員長，佐々木 奈緒子 委員，河本 和文 委員，中里 寛 委員，小山 順子 委員
葛西 利樹 委員，早川 健次 委員

（欠席：岡 邦広 委員）

＜県教育委員会及び仙台市教育委員会＞

遠藤 浩 参事兼高校教育課長
岩井 誠 仙台市教育局学校教育課長

事務局	（資料の確認）
	（開会）
事務局	（公開の確認） （出席者確認）
高校教育課長	（高校教育課長挨拶）
事務局	（進行交代）
事務局	（委員長 司会進行開始）
委員長	本専門委員会は、あくまで調査と、是非の議論を、結論ありきではなく、議論を尽くすという場であるので、忌憚のない意見、様々な角度からの意見をお願いしたい。それでは、まず初めに第1回専門委員会の審議内容についての説明をお願いします。
事務局	（事務局より説明）
委員長	前回の審議内容についてのまとめ、さらに+αで、公立高校の部活等の調査を報告いただいた。非常にわかりやすくまとめていただいて感謝する。 全国募集の検討にあたっては、県内の生徒のためになるものかどうかということに重点を置くこと、目指すべきは学びの質の維持、さらには向上という点について事務局から改めて確認があった。タイプ別の有効性等、懸念される事項についても、説明があった。 説明があったことについて質問があればお願いします。
委員	（特に無し）
委員長	懸念される事項として、有効性のところにある「意欲の高い県外生徒」とあるが、やや生徒指導、困難を抱える生徒のこと等もいかがか。
事務局	全国的な様子を見ると、やはり入った当初は、そこに行こうと思って入ってくるが、もともと不登校傾向があった生徒が、心機一転、入れ替えて頑張ろうと入っても、結果、頑張りきれずに、うまくいかなかったであるとか、保護者の意向が強すぎて、実は本人の意思が伴っていないというケースも全国的には見受けられる。
委員長	他に質問等いかがか。 では次に審議に移る。引き続き事務局からお願いします。
事務局	（事務局より説明）
委員長	御意見をお願いしたい。この審議は重要であるので、すべての委員に御発言をいただきたいと思う。意見は特にないという御意見でも結構である。 それから43ページからは条件について、詳しく調べていただいた資料が載っている。かなり細かい条件設定があり、それぞれの地域、都道府県ごとに、異なっている。

	<p>これも大変参考になる資料ではないかと思う。 いかがか。河本委員から意見をいただきたい。</p>
河本委員	<p>全国募集が宮城県にとって有効かどうかという点については、一項目ずつ検討するようなことではないと思われる。要するに全国募集の有効性というものが、どのような学校が、どのような地域が実施するのか、或いはどのようなコンセプトで実施するかということに関わること。それから、基本的に県外から来る生徒のためになるものが、そのまま、地域、学校のためになるという構造ができ上がっていなければ、存続はなかなか難しいと思うし、有効性も出てこないと思われる。これらを、一つ一つ考えていかないと、有効性があるか、ないかという議論ができないのではないかという考えである。</p>
委員長	<p>葛西委員、いかがか。</p>
葛西委員	<p>全国募集については、南三陸町の方で志津川高校の魅力化構想といったものに対してのパブリックコメントを今年の2月28日から3月13日の間に実施したが、その状況を見ると「積極的に推進すべき」が87%という数字であった。「推進すべき」が10.9%で、「必要ない」というのが2.2%という結果で、件数的には121件の意見が寄せられたということで、町の方の話では、パブリックコメントとしては非常に多い数字で、かなり住民の方も関心が高いということであった。</p> <p>全国募集についての、住民の方々の御意見として多かったのは、先ほどからお話があるとおり、メリットとして、「多様な価値観を持った生徒と関わらせて欲しい」ということであった。</p> <p>本校生徒の約9割は、歌津中学校、志津川中学校、町内の中学校から来ているが、保育所からずっと同じ人間関係という中で育っているので、生徒は非常に純粋で素直で、心やさしい生徒が多い。少し不足しているところとしては、他のところに出ると、なかなか自分の意見や積極的な発信ができないなど、内気な面があるということもあって、ぜひ全国から、色々な環境で、また考え方も違ったところで育ってきている生徒と交流を深めて欲しい。</p> <p>また、県外から来た生徒たちには、南三陸を第二のふるさととして、高校卒業後も町に関わって欲しいという願いもあって、積極的な御意見がある。</p> <p>対象となる学校地域ということになると、定員充足率といったものが、本日の資料の中にもあるが、過去5年間、例えば定員が充足していない地域にある学校であるとか、また、その地域にある市町村の財政的な支援も含めてのバックアップ体制がしっかりと整っている、しかもその地域の住民の方々からの要望も強いということが条件になると思っている。</p> <p>その時に一番問題となってくるのが、身元引受人をどうするのが大きな問題であるが、預かった以上は責任を持って育てるという責務があるので、身元引受人をしっかりと確保するというのがあるかと思う。そのことについては、かなり大きな問題であるので、本校としても今後、町の方とも協議を進めていきたいと思う。</p> <p>また先進校視察に昨年行った時に、視察先の校長先生に言われたのだが、その学校は全国的にも比較的成功的な例ではあったが、寮の整備など、財政的な負担が大きく、町としては、本音を言えば、もう縮小したいというような本音があるが、始めた以上、なかなか後には引けないといったところがあるようだ。前回も話が出ていたが、見直し、例えば5年で制度を見直すというような、そうした機会は設けておく必要があるのではないかという話をいただいた。</p> <p>そうしたことも含めて積極的に検討していきたいと思っている。</p>
委員長	<p>意見としては、条件として、定員の充足率の低い高校という条件もあるであろう。また、地域、地方自治体での財政のバックアップがなければできない。それから、住民の要望が必要であろう。身元引受人が責任を持って引き受けられる体制を整えなくてはいけない。</p> <p>それから、寮など受け入れの環境面での制度について、財政の圧迫の可能性があるので、制度見直しという、ある程度の期間を設けることも、一つの案であろうという御意見だったと思う。</p> <p>またパブリックコメントの数値も紹介いただき感謝する。87%が「積極的に受け入れる」ということ、それから少子化が進む中で、小さな学校では人間関係を固定してい</p>

	<p>ると、そこにまた新たな価値観、これが火種になることもあるかもしれないが、学校だけではなく地域としても、その多様な価値観を歓迎する風土があるという意見であった。</p> <p>やや生徒指導上問題になる生徒が、県外から来た場合、そのようなところは、学校でいろいろと大変になろうと思うが、どのくらいの負担感があるか。</p>
葛西委員	<p>特別指導などの案件が発生すれば、全てがストップしてしまう。それが、どのような案件かということや程度にもよるが、クラスの中でいじめの案件があったり、窃盗があったり、それから警察が介入するような事案が発生した場合は、クラスで複数件発生すると、全てがストップする。学習指導に充てる時間も含めて、先生方の時間が取られてしまう。</p> <p>また、保護者対応も含めて、外部の機関が絡むということになれば、そこの連絡調整ということもあるので、日常的にそうしたことは起こりうるが、件数が増えてくると学校側の負担というのは増えることになる。</p>
委員長	では早川委員、いかがか。
早川委員	<p>全国募集のあり方について、前回の資料や今事務局からあった説明に意見を加えると、正直、個人的には全部のタイプを何らかの形で取り入れていくというのはまだ不安があるのではないかと感じる。</p> <p>資料2ページ、タイプが一番下のところにある「条件なし」というのと、全部を取り入れて実施してしまうと、同じようになってしまっていると感じているので、このあたりが、今の段階で気になっているところである。</p> <p>ただ、この全国募集について、前回も発言した通り、全国の中では多くの道府県も実施しているので、逆に言うと、「実施する」ということを踏まえつつ、いろいろ審議しているが、「実施しない」ということは難しいのかなと感じている。したがって、色々な意見を、この委員会でいただいて、ソフトランディングするような形が良いと思っている。</p> <p>その中でいうと、葛西委員からあったように、ケースをみたりして、実施するような学校に当てはめたときにどうなるのかということを検証した上でないと、何にもないところで始めというときに、あれもこれも問題が出てきたぞというのは、初のケースだからこそ怖いかなと感じている。</p> <p>ただ、生徒指導の案件も出てきたが、「必ず生徒指導案件で様々なことがあるから、少し不安だ」と、新しいことをやる時には必ずマイナス面も当然踏まえた上での対応ということになるので、この辺のところを総合的に鑑みた上で、どのような方向で実施できるのかを検討した方が良いと思う。</p>
委員長	<p>条件なしで一律実施というのは、少し難があるという御意見でした。それから後進であるからこそ、「やらない」というのもないのではないかと。そしてソフトランディングとしては、ケースについてモデル校を設けてみるのも一案ではないかと。</p> <p>それから生徒指導については、何か新しいことをする場合には、やはりいろいろな難点というのはつきものであると。</p> <p>教育というのは、ピンチをチャンスに変えるというのが教育でもあるし、それから県外の生徒だけがそういう生徒指導上の問題をはらむわけでもないし、それも踏まえた上で、実施にポジティブな御意見だと理解した。</p> <p>では、小山委員いかがか。</p>
小山委員	<p>全国募集の有効性というのは、お話していただいた部分で、その通りであるということでは感じている。今、中学校でも他県からの全国募集の文書が来るが、宮城県がやりますよというのを、どのように発信していくかというのが非常に大切になってくると感じている。文書が来て、「こんなのがあるよ」というのだが、子どもたちにとって、もっと情報が欲しいとはならない。</p> <p>そこで、せっかく宮城県でやるのであれば、その良さを、他県にはない魅力をうまく発信していかないと、多くの県でやっているところなので、そこも重要な部分に感じている。</p>
委員長	<p>中学校現場からの意見、感謝する。</p> <p>やはり中学生が他県の高校をとということが難しい中、宮城県だから、宮城県の自治体</p>

	<p>だからこそという魅力のある発信が必要であるという御意見だと理解した。 では中里委員、いかがか。</p>
中里委員	<p>中学校の校長の立場としては、前回、私は総論として賛成、地域の活性化という点、産業、工業という点、そういったところで将来的な見地から、時代の流れに立つ、非常に良い施策だと思う。</p> <p>ただ、私も中学校の教員として考えたとき、子どもたちの入学の機会を確保というのは申し上げるまでもなく最低条件ということで、どのくらい宮城県を受験生を入学させてあげたいという熱い思いがあるといった前提を踏まえての意見として理解いただきたい。</p> <p>そうすると、この募集のあり方については大きく背反するのだが、一つ目は入学機会の確保という点、同時に地域、これから宮城をどう盛り上げていくのか、活性化させていくのかという視点、そのような両方の面から、バランスを取ったやり方をしていくのがよいと思う。</p> <p>そうすると、資料2ページにタイプをわかりやすくまとめていただいたが、最初の学校の魅力アップ、地域の活性化、おそらくこういったところは充足率もおそらく低い高校が多いであろう。それから、地域の力も業種性が高く、郷土愛であるとか、そうした地域の支援も受けられやすいところだと思う。それにより、入学機会等そうしたことを心配せずにやっていただけるのかなと思う。</p> <p>二つ目の特色ある学科、前回、多賀城高校の災害科学科について話をさせていただいたが、ここはおそらく倍率が高いところだと思う。こうしたところからすると、先ほど入学機会の確保、宮城県の子どもたち、中学生たちで希望者が、できれば地元の災害について深く学びたいと思っている子どもたちを、できる限り入れてあげたいという思いもありながら、一方でこの災害科学科というのは、全国的にも学びの、日本全国を視野に入れた学びができる場所であると考えれば、外から入ってくる子どもたちに対する指導というの、長い目で言うと宮城の活性化に繋がる。そう考えたときに、ぎりぎりのところで、どのぐらいの枠を、まずは作るか作らないのか、それから作る場合は何%の枠になってくるのか、これも吟味の土台になるであろうと思う。</p> <p>いただいた資料の中で、「制限なし」から「50%」「30%」「20%」、低いところで「5%」というところもいくつかあったが、そういったところで宮城の中学生への入学の機会を十分確保した上で、ただ、閉ざすのではなく、割合的なところ、配分的なところで、どのように吟味していくのかは、これからの課題であると思う。</p> <p>三つ目、特定の部活の競技力向上。これについて私個人としては、ここをあまりやる必要がないのではないかなと思う。その理由は、競技力の向上よりもむしろ、県内の生徒のためになるかという視点で見たときに、あくまでも強い部活動という、どちらかというと校内事情的なところで動くのであれば必要はない。ただ、例えば地域ぐるみで行っているスポーツとして、気仙沼市のフェンシングという競技がある。</p> <p>気仙沼という地域は、フェンシング振興に力を入れていて、私が気仙沼に勤めていたときは、わざわざ高校の方から、フェンシング部の生徒がデモンストレーションをしに来て、このような競技だと紹介するためにやっていたということがあった。</p> <p>支援体制も学校だけでなく、色々な方々が行っており、そういったことを見ると、特定の部活の競技力向上と言いながらも、一番最初の地域の活性化であるとか、学校の魅力化に繋がるような競技もある。</p> <p>そういうことであれば、私はよろしいかと思ったが、ここに書いてあるアーチェリーも魅力ある高校の特色であると思うけれども、充足率の問題もあり、競技力を高めるために定員を満たし、受けていた生徒が落ちてしまったということになれば、あまり望むものではないのではないかなと思う。</p>
委員長	<p>中学校現場からの意見に感謝する。</p> <p>やはり県内の生徒の進学機会を圧迫するようなことは控えるべきである。それでありながら、地域活性化というものとバランスをとるという御意見であったと思う。</p> <p>具体的にも、その魅力アップのタイプの方で言うと、魅力アップのところは積極的に進めてもいいであろう。それから特色のある学科については、バランスも非常に微妙なところであるという、多賀城高校の災害科学科については、資料でも充足率が5年間</p>

	<p>のうちの3年は100%にしているわけなので、この辺のバランスのとり方は難しいであろうということであった。</p> <p>そして、三つ目の特定の部活動の競技力の向上についても、1番目のものとリンクするケースがあるということ。気仙沼のフェンシングと、具体的な例を出していただき、感謝する。</p> <p>では、佐々木委員、いかがか。</p>
佐々木委員	<p>先日の1回目の会議の時にテレビ放映されたので、保護者の方でも見ている方がいらっちゃった。それで、数名から意見をいただいた。話をいただいた中で、保護者からするとなぜ今頃なのか、遅いとか早いとかではなく、子どもが少なくなっているからやるとか、周りがやっているからやるという考え方はどうなのかと。自分たちの子どもがここで育っていくために、県内の高校があるのに、なぜやらねばならないのかがわからないという意見が数件あった。また、おそらく、以前に全国募集をやりましょうという会議、委員会があったと聞いている。その会議がどういうものであったかわからないが、報道を見ていた役員からも、昔、中新田高校で全国募集のような大きなことをやろうとしたときに、話が駄目になったとか中止になったという。よくは分からないが、そのような経緯があるのに、まだ中新田高校が、ここに名前上がってきており、同じことをもう一回やろうとしたきっかけがわからないが、どうなのかという話をいただいた。</p> <p>私としては全国的にやっていることであるし、県外の子どもたちにもプラスになることでもあり、宮城県の子どもたちにプラスになることはやってもいいのではないかなと思う。</p> <p>このタイプからすると、学校の魅力アップで、中新田高校で学校改革が起き、やりましょうということ、地域でタイアップしてやっていることが、何がわからないというのと、全国的な特色ある学科で、例えば全国募集をしようとした時に、定員をオーバーして、落ちている子どもたちがいるのにもかかわらず、全国募集するのであれば定員を増やすのか、そのような検討もしていただけるのか。</p> <p>それから特色の部活動に関しては、例えばどうしても強くしたいものがあるのであれば、外部コーチなどをつけて先生たちだけの負担にならないような方法を考えたりする手段があれば、私はどれでもやってもいいのかなと思う。</p> <p>ただ、一律全部の学校が募集するというのは、前も話したが、普通科なのに、別に普通科に呼び寄せるようなものは要らないのではないかなと思った。</p>
委員長	<p>条件なしというのは、全委員の一致でそぐわないということは、確かであると思う。</p> <p>そして3つのタイプどれもよいのではないかなという意見であったと承った。</p> <p>ただ、他県がやっているからやるとか、少子化だからというのは、実際少子化だからということになるかと思う。充足率が悪いのもやはり少子化であるので。</p> <p>しかし、少子化だからやるというのも保護者目線で言うとやはり抵抗があるというような意見だったと思う。</p> <p>以前全国募集の会議というのはあったのか。</p>
事務局	<p>記憶にはない。7月22日の入学者選抜審議会のことか。</p>
佐々木委員	<p>もっと結構前のことだと思う。私もその辺はわからなかったので答えられなかったのだが。</p>
事務局	<p>こちらでは把握しておらず、中新田高校がその時手を挙げたというのもわからない。先ほど話があった、中新田高校がどういった取組をしているのかということ、話があったが、地域課題解決型の学習を深めて、検討しているということについては、話は聞いている。</p>
委員長	<p>中新田高校の方も地域とタイアップしながら、進めるという方向性だということである。</p> <p>あくまで県内の生徒のプラスということがありきという御意見だったと思う。</p> <p>他の委員の意見を聞いた上で、またプラスの御意見あればと思うがいかがか。</p> <p>対象となる学校をどのように選ぶかについてはどうか。</p> <p>河本委員いかがか。</p>
河本委員	<p>なかなかこういう学校であればなど設定していくことは、色々なことが関連してくるので、検討が難しいと思う。先ほどモデル校という話があったが、もしこの学校で実</p>

	<p>施するとしたら、この地域の学校で実施するとしたら、ということが課題で、ということがクリアできれば実施可能なのか、そういうような方向を一つ二つ考えてみる。</p> <p>そうすると、その高校に関して、いろいろ地域性或いはコンセプトとか見ていった時に、これであるならば全国募集を導入してもよいか悪いのか、具体的に検討しやすいだろうと思う。</p> <p>今、色々な委員の方々から話を聞いたが、皆さんが頭に思い描いている高校の像はまちまちであろうし、先ほど話のあった志津川高校でのパブリックコメントの「積極的な導入」派が87%という話があったが、実際、地域住民の方が何を期待して、87%なのか。これが見えないと、この形で導入したときに、そういうつもりじゃなかったとなってしまう。</p> <p>実際、具体的な高校でもよいし、架空の高校でもよいので、宮城県のある地域のある高校をモデル校として、それについて検討することによって、より一般的な形に結びつけられるのかなと思う。</p>
委員長	葛西委員いかがか。
葛西委員	<p>先ほど中里委員の方から出された意見に賛同するのだが、定員充足が満たされている地域で、ある学校については、県外の生徒が合格して、その地域の生徒が不合格になるといったことについては、やはり地域の住民の方の御理解はなかなか得られないと思っている。</p> <p>特色のある学科については、やはり定員充足率、競争倍率の高い高校であるならば、当然県外の生徒も魅力を感じて、受験したいという希望も多く出てくるとは思われるけれども、過去の定員充足率といったものを見ながら、判断していく必要があると思っている。</p> <p>また、地域の自治体、市町村からの財政的な支援といったところについては、具体的な話でいくと、本日の別冊資料2の7ページに「広報活動の充実」が載っているが、7ページの「地域教育魅力化プラットフォーム」という団体、「地域みらい留学フェスタ」というのが、全国募集をしている公立高校が東京、大阪、名古屋、その3箇所一堂に集まって、PRする機会があるが、またいろいろコーディネートしてくださるようである。本校にも、先だって案内が来たが、こちらに書かれてある通り、登録料年間80万。これを県の方で持っていただけるかどうか。こういったことについてもおそらく南三陸町の方が、正式に聞いていないが、おそらく出してくださると思っている。こういった具体的にいろいろかかる財政的な支援というのは、その地域にある市町村の方で、しっかり出していただける体制にあるといったところは大事なところだと思う。</p> <p>また、6ページにも、「地域のサポート」ということで、経済的な支援で、入学準備金10万円とか、下宿の費用月額約3万円まで補助とか、こういうことをやっている県外の高校もあるようなので、こういった財政的な支援が、市町村の方で、出していただけるかどうかといった体制がとられているところが、対象となってくるのかなと思う。</p>
委員長	財政的にはいかがか。
事務局	<p>別冊1の43ページ、44ページを御覧願う。こちらの表で「県の支援」というのがある。こちらを見ていただくと県として財政的な支援をしている道府県というのが、群馬県で、県事業として部屋を借り上げて、定額で生徒に貸与したり、或いは三重県が、プラットフォームの負担金2校分負担する、鳥取や島根の方で、プラットフォームの負担金であったり、様々に負担しているというぐらいで、実はそれ以外の道府県では、県としての支援はしていない状況である。これはなぜなのかというと、県としてお金を支援できるのは、県内生徒のためになるものかどうかといったときに、特定の地域だけの支援ということは、なかなか県としても難しいようである。</p> <p>ただ、鳥取県や島根県が、それができる理由は、これは県全体で、多くの学校で導入するため、県全体の取り組みとして支援しているという経緯があるようで、それ以外の道府県では難しい。</p> <p>宮城県としても、財政支出というのは難しそうである。</p>
委員長	<p>そうすると、財政支援ができる市町村の学校というような条件になってくるかと思う。また、県費だけではなく、魅力ある高校だとスーパーグローバルハイスクールなどいろいろなお金の取り方、或いは、場合によっては大学の研究関係みたいなもののお</p>

	<p>金の取り方もあろうかと思う。そういうところが模索できる地域という条件になってくるかと思う。</p> <p>早川委員，いかがか。</p>
早川委員	<p>皆さんの意見を聞いた中でいくと，2ページのタイプでいったときに，全国的に特色のある学校で，仙塩地区の学校でやるというのは，ちょっとハードルが高いと思う。後で説明もあるかもしれないが，やはり倍率を見ていただいて，そののところをやらないと先ほど佐々木委員からあったように，何で高倍率であるのに，その高校に県外の生徒を入れるのかという意見を払拭することはできないのではないかと考えている。</p> <p>その辺のところは，両輪でいかなければいけないので，ちょっとこの2番目については，真っ先に導入というのは結構厳しいと思う。</p> <p>それから部活動のところについても色々な課題があって，その競技の人たちはとても協力的かもしれないけども，その自治体がと言われた時に，そこまではという温度差があったときに，「制度があるから協力して」と投げられるかという，これはこれで難しいところがあるというように思うが，この全国募集というものを，どれぐらいのスパンで導入するかということを検討しているのかということにかかってくると思う。</p> <p>ある程度下支えのあるところから，先ほど河本委員からもあったが，具体的なところを，まずは，テスト校みたいな形でやっていくということが，一番が端的に，宮城県の全国募集にとっては，こういうやり方が合っているのかなという検証ができると思う。</p> <p>「制度は作った。」，「後はやってね」と市町村に投げられても，逆に中学校の生徒に対してのアピールもただ「制度があるよ」と言っても，「それは何なの」と言われても困る。</p> <p>逆に自治体がこういうことをやって，それこそ先ほどあったように志津川の辺りだと，ずっと同じ生徒が育ってきてというところに，その外の意見を入れてというところをやって，そのグローバル的な要素とか，あとは逆に言ったら地域を理解するのに意外と地域の生徒というのは，そこで育っているのだから，あまり良さが見えなかった。そこに他の地域の人がやってきて，「ここのこういうところがいいよね」ということをした時に再発見できるという意味では，活性化という意味では可能性はもてると思う。</p> <p>個人的には最初に導入していくというそのソフトランディングというところでは，一番上のタイプのところでやってみようというのが一つの手であると思う。</p>
委員長	<p>一番上のタイプを支持する意見が多いということで，2番目3番目については，ネガティブ，ポジティブ両方あるということである。</p> <p>テスト校ないしモデル校，或いは，そのスパン，そしてまた見直しをかけられる，というところの制度上の立て付けはどのようになっているか。</p>
事務局	<p>そのあたりは，検討次第でということになるかと思うが，では，そのスパンはといったときに，全国的には例えば3年であったり，5年であったりと，やはり同様にモデル校を導入して検討をしているという道府県はあるようである。先ほどの43，44ページの中で言うと，例えば，三重県では5年間，モデル校として実施して検証し，継続かどうかを決定するということである。</p> <p>それから宮城県もモデル校として継続，検討となっている。それ以外の今軌道に乗っているところも，最初の取っかかりは，導入してみて，検証してというところで，探っ歩いていながらやっているというところが多いようである。</p> <p>また，それ以外のところ，充足率という観点でいうと，1年ごとに確認しながら行くところもあれば，3年間見てといったところで，そこは様々あり，決め方であると考えている。</p>
委員長	<p>他県では，モデル校で3年ないし5年の見直しもかけられるような制度を作っている。おそらくそういう制度の方が，無難ではないかという意見が多いという感じがする。</p> <p>ちなみに暴論かもしれないが，充足率が100%を超えているところに，もっと他県からも集まって，応募があって，過熱することが，県内の生徒のためになるということはないか。</p> <p>非常に全国的に注目を浴びる高校が，宮城県に1校でも2校でもあって，というようなことが，県内の子どもたちに，刺激を与えたり，プライドになったりしないか。</p>

	ただ、圧迫するだけか。暴論で申し訳ない。
中里委員	<p>先ほど話をしたのだが、その辺の折り合いが難しい。でも親御さんからしたら、自分の子どもがその学校を受けているのに、1人2人枠が取られるのかと。それは身に迫った問題である。</p> <p>ただ、将来的に宮城県の子どもたち、県内の生徒たちのためになるのかどうかという視点だけで言えば、これは多分、駄目だと思うけれども、ただ、今の時代、もっと先を考えて、例えば、災害科学とか防災というのは、もう全国に関係している問題なので、そういった先端的なことを高校生に学ばせる機会というのを、宮城県だけで困っておくことが、本当に宮城県にとって良いかどうかという言葉で考えるならば、もう本当に若干名の枠ぐらい取ってやってもいいのではないかという気持ちは正直ある。多分難しいとは思いますが。</p>
委員長	小山委員はいかがか。
小山委員	<p>私も中学校の立場なので、県内の学校の子どもたちが県内の高校を希望しているという状況であれば、やはりその希望とする高校を目指させたいという希望が一番である。</p> <p>また、親の立場からしても、どちらかといえば県内を希望する親御さんが実際に多いと思う。そういう親御さんの気持ちも考えるとどうかとも感じている。今のお話も、面白いとは思いますが。</p>
委員長	中里委員、さらになにかあるか。
中里委員	とくにはありません。
委員長	では、佐々木委員いかがか。
佐々木委員	<p>例えば災害科学科のように、かなり人気のある学科を、もう一つつくるということはできないか。例えばだが、登米総合産業高校のどれかの学科を変えて災害科学科をもう一つつくるか。</p> <p>例えば、設備がすごくいっぱい必要なものであれば無理だろうが、そういうふうにもう少し柔軟な考えというか、いつまでも人気のないところにくっついていないで、発想を変えてやってみたら、例えば多賀城高校には行けなかったけど、登米総合産業高校だったらここから通えるとか、例えば志津川高校で一生懸命やっているようなものを、県内で広めて、県内の、例えば大崎から行きたかったけれど、例えば寮があれば、大崎からも補助があれば行けるとか、もうすこし人気が高いところに行けなかった子たちも行けるようになったりとか、そういうようにしてもらえれば、やはり県外に行くのは心配だが、県内で行き来があれば嬉しいかなと思う。</p> <p>これであれば、全国募集なので意味はないのだが、このように広めていけたらよいと思う。</p>
委員長	なるほど。アイデアとして、その地域と密着しているのでしょうか、地域の課題だけではなくて、全国的な課題をやるというような魅力を、どこかの高校で発信して、それを売りにして全国募集をするというのものもあるか。
早川委員	<p>今の話でいくと、何か全国募集の後の段階であると思う。例えば、今、志津川高校が、確かに人が来ていないというのはあるのだが、根本的に学校の中のカリキュラムの魅力あるカリキュラム開発というのが一番の大前提だと思う。</p> <p>その魅力あるものに、全国から人が来たというのであれば、そのようなものをやるために、もう一つ新しい学科を作りましょうという話はわかるのだが、最初に魅力のあるところで倍率もあるけども、全国で取りましょとなれば、その両輪の県内の生徒が入れないというところの声の方が大きくなってしまって、制度としてはすごく活性化するかもしれないが、不満の方が大きくなるような気がしないでもない。</p> <p>段階的にやったら、そういうような全国募集で画期的な学科ができたというのがあれば、もう一つ作ってみましょかとなった時に、その学校で倍率が高くても入れるという、この学校もこの学校もできますよというのであればわかるのだが、そちらのほうを先に行うとすると少し怖いかなと思う。</p>
委員長	<p>その辺りを事務局でまとめてもらいたい。</p> <p>魅力あるカリキュラムというところがまず出発点であろう。</p> <p>そういう意味で言うと、この学校に来たら、学力は上がると、非認知の探究をやって</p>

	<p>学力が上がります、というようなカリキュラムが開発できて、エビデンスがあれば、全国に訴える材料にもなろうかとも思う。</p> <p>他いかがか。よろしいか。</p> <p>では、次の「学びの質の維持に向けた考え方」のところに進みたい。維持プラス向上も含めたことだと思うが、これについて事務局から説明願う。</p>
事務局 委員長	<p>(事務局より説明)</p> <p>説明、感謝する。</p> <p>まずは、充足率100%の学校も対象とするかについては、ネガティブな意見がほとんどであったという事ですが、そういう理解でよろしいか。</p> <p>それで、制限を設けるか、設けるとすればどう決めるか。それから、継続見直しについては、これまでの非常に財政を圧迫するようなケースがあることからすれば、やはり見直しの期間を含めたものが良いという意見でよろしいか。</p> <p>制度として入れていくということに対しては、それを支持する意見はないというような理解だということである。</p> <p>定員の制限について、これはどのようにお考えか、或いは設ける場合どうするか。いかがか。河本委員お願いする。</p>
河本委員	<p>先ほどの地域の支援体制ということ関係することになるが、一つは、地元の宮城県にいる生徒たちが逆にに行けなくなるという状況をつくらないためにも、当然人数制限は必要だと思うし、また全国からくる生徒のために、金銭的な支援、或いは生活上の支援、さらにその他もろもろの支援というものを考えると、当然、地域から支援があるならば制限はある。どのくらいの数であれば支援ができるのかとなってくるので。</p> <p>当然、定員の何%とか、あるいは何名以内といった形の人数制限をすることになる。そうすると、先ほど話がでてきた、例えば反対の御意見が多かったが、部活動などで生徒をとる、これは、競技種目にもよるけれども、団体競技においては、チームが成立しないと出場できないこともあるので、この人数制限が逆にあだになり生徒が集まらないという状況になる。人数制限を入れると団体競技に関するようなコンセプトの全国募集は難しくなってくる。</p> <p>あくまで個人競技になるかもしれないが、そうなったときの練習場の地域の支援や、練習場所とか、支援体制など、そういうこともあるので、その人数の制限というのが、活動に関わってくることが、非常に大きくなってくると思う。</p> <p>来た生徒に対して、ちょっと話がずれますけれども、何を保証してあげるのかなど。その来た生徒が何のために、一つは進路上でこのようなことが保証されるとか、或いはこのような資格が取得できるとか、或いは地域によっては、その学校に来れば、海外留学費が支援されますよとか。または、先ほども出た、「このような学びができ、喜びが得られる」「学力が身につく」など。生徒が来たことによって得るメリットというのが、明確にしていく上ではそれなりのバックアップが必要となり、当然、人数は制限されるであろう。地域のためになるということを考えても、人数制限は必要になると思う。</p> <p>高校入試とは離れるが、例えば医者数が少ない地域とかは、医学部に入った生徒に対して、地元に戻ってくるのであれば、返還不要の奨学金を出しているとか、そういった形で、結局は地域のためになるように支援していく体制が取られていることが多々ある。全国募集といったことによっては、地域のためになると考えた場合には、それを見据えた支援が必要になってくるのではないかと。</p> <p>地域も生徒が来るからといって、結局高校3年間過ごしてまた帰ってしまって、何も残らなかったとか、地元の生徒に有益なものを与えられなかったということであれば、やはり財政的に非常に難しい、継続は難しいということになると思う。</p> <p>人数制限と人数の制限が関わるその地域のバックアップ体制とか、関連づけて検討していかなければならないと思う。</p>
委員長	<p>御意見に感謝する。</p> <p>募集定員には制限を設けると。その制限をどう設けるかについては、各市町村の財政の状況から導き出されるだろうと。</p> <p>或いは、教育の施設、チームならばチームの人数や練習場とか、或いは地域のニーズ、こういう条件で帰ってきて欲しいというような、そういったようなことから、逆算</p>

	<p>されていくであろうというような御意見と承った。 葛西委員，いかがか。</p>
葛西委員	<p>南三陸町でも，その目標といったところで，魅力化構想で上がった資料で言うと，初年度目標としては令和4年からと，町では，県外から10人，令和5年が15人，令和6年が25人というような目標を立てている。それで，この人数はどのようにして出したのかということだが，町では今，里親制度といったところで，寮を新しくつくるのではなく，里親という制度でもって，県外生徒を受け入れたいというふうになった場合，10人が限度であろうといったところで，この10人というような数字を出してきた。</p> <p>したがって，この何%の制限を設けるかというのは，非常に難しいところなのだが，県外の生徒に関してやはり住まいの確保といったことが，やはり一番大事になってくるところで，アパートとか，そういったところで多いたくさんある場所であれば別なのだろうが，一つの柱として，住まいの確保といったところから，ある程度この募集定員といったものが決まってくるのではないかと考えた。</p> <p>それで，本校の場合だと連携といったものもやっているのだから，連携入試のほうの枠であるとか，連携以外の南三陸町以外の生徒の募集枠といったものも合わせて考えて，今の県教委の方には，ご指導いただいているところだが，受け入れ体制としては，そういう生活面といったところも考えて，また，先ほど河本委員から出た，その部活動の活動のキャパシティといったところも合わせて考えていかなければいけないと思っている。</p>
委員長	<p>もうすでに検討を始めているということで，具体的な数字を出していただき，感謝する。</p> <p>里親制度とか，子どもの住まいの問題からも決まってくるということである。 早川委員いかがか。</p>
早川委員	<p>今，お二人の委員からあったようなところも重複になるのだが，やはりキャパが決まらないと，制度としてこれだけの人というように押し付けるのはちょっと難しいと思う。各県の状況を見ると，ある程度，若干名みたいな形にして，3年ぐらい見ていただいた中で，何人来る，逆に言ったら，この制度をやるとしたら今，事務局あたりは，何人ぐらい来ると想定しているのか，この辺のところがないとなかなか見えない。</p> <p>個々にあった，無理しない形の数設定というのが必要であると思う。</p>
委員長	<p>一律何%という決め方はなくて，地域の事情に応じた制限の付け方ということか。 小山委員いかがか。</p>
小山委員	<p>同じである。やはり県から支援がなかなか難しいという話も分かったので，市町村の感覚というところも大事にしていかなければならない。一概にということではなく，状況をみて判断していかなければならないのかなと思う。</p>
委員長	<p>中里委員，いかがか。</p>
中里委員	<p>いま，お話を伺った通りだと思う。やはり，地域の状況によって変わってくるであろうと思う。</p> <p>ただ，やっぱり最初は小さく始めたほうがよいと思う。</p>
委員長	<p>佐々木委員いかがか。</p>
佐々木委員	<p>私も皆さんと同じ意見なので，そのままよいと思う。</p> <p>ただ，さっき志津川で言われた，里親制度は，例えば下宿みたいな感じなのか。家庭に預けるような。</p> <p>そうしたときに，例えばだが，そのご家庭と県外から来るお子さんが本当に合わなかったときにどうするかとか，そういうのも考えていけないのかなと思う。</p> <p>もし，同じことをやるときに，親としてはそこが心配かなと思った。</p>
葛西委員	<p>今台湾の学生等をショートステイで受け入れているご家庭を対象に，この前，町でヒアリングを行った。それで，3年間という長い期間なので，受け入れていただけるかどうか，ただ，最初はそういうことで3年間は長いし，それから，もし合わなかったらどうするのか，といった意見も出されたそうだが，いま2件ほど受け入れてもよいという家庭が出てきた。</p> <p>ただ心配しているのが，先ほど来からお話が出た身元引受人となると，またそこはまだ説明してない。身元引受人となると，これは責任が重いので，それについてはまだ正</p>

	<p>式には決まっていらないのだが、ミスマッチといったものをどのように防ぐかということで、町では、1回高校入試の前に、町の方で、希望している生徒と面談をしたいという希望を持っており、ただそれがこの制度として認められるのかどうか、高校入試といった前の段を変えて、町でもって単独で、受験生と接触して、面談等を行って、そこでまた、町の意にそぐわないといった生徒であるといった場合、入学を拒否したりとか、そのようなことになってしまうと、高校入試を、町の方でも、二段階で実施するような、そのような仕組みになる。これは本当に果たして制度として認められるのかという点が、懸念していることである。</p> <p>ただ、町の方ではぜひ、1度、受け入れる前に、ミスマッチといったものを防ぐ意味でも、高校入試の前に受験生と会いたいと、そのように思っている。</p>
委員長	その辺のところいかがか。受験前に接触するということは。
事務局	<p>なかなか軽はずみにいうことではないので、検討しなければいけないことと思う。ただ、難しいのではないかと、思っている</p> <p>何をもって判断するのかと。せっかく受けたいと思っているのに町が受け入れなかったから受験できませんというのは、果たしてどうなのか。支援するしないを、例えば町で決める決めないであれば、まだ考えられるが、選抜にあたって町が拒否するというのは、少し考えづらいかなと思う。ただ、検討はしないといけないと考えている。</p>
委員長	<p>ミスマッチということも出てくるかもしれないし、地域が支援してこそ、財政的にも支援してこそその枠となっていくと、ちょっと微妙なところであろうか。</p> <p>では、続き(2)のところもあるが、このあたりで休憩を挟みたいと思う。10分間休憩とする。</p>
	(休憩)
委員長	<p>では、審議を再開させていただく。</p> <p>次の学びの質の維持に向けた考え方の(2)、学校における教育課程、特色ある学びについて、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明感謝する。
	では、河本委員いかがか。
河本委員	<p>魅力ある学校としての教育課程のことにに関して、教育課程と言っても、なかなか範囲の広い話なので、実際どのような科目をどのように編成し、どのような教育活動を行っていくかというところがあると思う。ただ、その教育課程の整備といった上で、例えばこういう方向に向けて、こういう教育活動をするというような科目上の構成については、どこの学校でも、その方向性が決まれば、一通りに決まってくるもので、あまり汎用性、応用性はない。</p> <p>どちらかという、例えば総合的な探究の時間とか、或いはそのほかに、こういう特殊な学びの場があるとか、このような研究ができるなど、全く他の学校にないような、或いは、この地域でしか受けられない、というような、特殊性がその教育課程の中に含まれなければ、なかなかその魅力ある教育課程にはならないと思う。先ほども話したように、どのようなコンセプトで学校をセットして、どのような生徒を導出するのかというのにおいて、売り物になるこういう教育をしているよ、というものをセットしておかなければ、全国から魅力ある高校としては検討されないのではないかな。</p> <p>先ほど話に上がった多賀城高校の災害科学科などについては、確かに通常の学校とは違う教育課程を設定して、科目等を入れているし、学校によっては、文科省から特例といった形でいろいろなことを重点的に学ぶ学校として、特色ある教育課程となっているところもある。</p> <p>あるいは、本県でもSSHやSGHの指定校になったことによる魅力ある教育課程の編成というのもあるが、実際のところ、そういうふうな指定を受けることは、難しいところも多いと思うので、総合的な探究の時間にこういう活動があるとか、地域と連携して広域教育活動といったようなことが教育課程の中に入れられていくかどうかといったところがポイントになるのではないかなと思う。</p>
委員長	葛西委員いかがか。
葛西委員	全国から生徒を呼び込むためには、特色ある教育課程といったものは、やはり大事な

	<p>ポイントで、そこと地域の特性というのをどのように出していくかというのが非常に重要になってくるのかなと思っている。</p> <p>先だっの会議で中里委員の方からも牡鹿半島のお話が出たが、そのような地域にある素材といったものをいかに全国にアピールできるような形で、教育課程の中に入れることができるかといったところが、やはり大事になってくる視点なのかなと思っている。</p> <p>それで今、本校で県教委の指導をいただきながら、普通科の方に地域創造系という、系列を設けて、それを一つの全国募集の柱にしようといったところで、学校設定科目として「地域学」と「地域探究学」の二つの科目をつくって、そこで南三陸の海、そして自然、それから山林、そのような地域の資源を、教育課程の中で地域のいろいろな専門家の方々を学校に呼んで、といったところで検討しているところだが、なかなかそれを、アピールというか、PRをして学科を作るわけではないので、普通科といったくりの中で、どのように特色を出していけるかといった広報、その仕方がやはり一番難しいのかなと思っている。</p> <p>今回、情報ビジネス科の方は、モアイ化計画とか、そういった今現代社会の高校の資料の方にも掲載されているけれども、地域の方々からも、高い評価をいただいている活動を行っている学科があるのだけれども、普通科をどのように魅力のある中身に変えていくかといったところがやはり一番大きな問題なのかなと思っている。</p>
委員長	早川委員、いかがか。
早川委員	<p>先ほど河本委員からもあったように教育課程となると、もう枠が決まっているところなので、使えるところが、今後であれば先進的な学校は、やはり総合的な探究の時間の活用とか、あとは教育課程外のところである。そこのところでどういう取組をするかというふうになるかと思っている。</p> <p>今挙がっている学校、志津川高校ないし中新田高校で考えれば、一つ本当に個人的に思うところは、行政に参画させるというのも面白いのかなと思っている。成年年齢が18歳に下がるというのもあるので、どういう形になるかわからないが、新しい目線というか、その地域を勉強した生徒が、その地域の行政を、どう動かしていくのかというところは今後は課題になっていくのかというように思っている。</p>
委員長	<p>今後また「公共」という科目が必修化されることもあり、いろいろと今の行政参画というのも新しいアイデアではないかと思う。</p> <p>小山委員いかがか</p>
小山委員	学校の魅力アップとか学校自体の魅力を全体で、教育課程で整備していくというのは、県内の子どもにとってもすごくありがたいことだと思うので、全国募集ということも大事なのだが、そういう意味ではとても意味あることだと思っている。
委員長	中里委員いかがか。
中里委員	<p>葛西委員のお話の中で、普通科でも校長先生がリーダーシップをとって、特色を出していくことができるということで、素晴らしいと思っている。</p> <p>一方で、充足率の高い学校や進学校と言われるような学校では、なかなか限られた教育課程で、自由の効く時間の中で、特色を出すというのもなかなか難しい話もあり、伝統的な高校をはじめとした行事だとかそういったところで持っていていっている学校も多いと思うのだが、普通科がかなり厳しいところがあると思う。よほど計画的にやらないと、募集計画の方針を変えるようなですね、特色を出すのはなかなか厳しいであろう。</p> <p>むしろ、農業であるとか林業であるとか登米総合産業高校もそうだが、それから水産、こういったところはもう、その存在自体が特色であるので、特に宮城県というのを踏まえれば、再三ではあるが、産業基盤を考えたときに、そういった学校が、そもそも特色ある学校だということで、より力を入れていただければと思う。</p> <p>学校の魅力というのは、ある程度、県外募集に耐えられるのであれば、ある程度長いスパンというか、継続性というか普遍性というか、それを考えていかないと、募集を継続的になるような安定感が出てこないと思う。</p> <p>そうした意味で、極力避けたいのは、1年1年でコロッと変わってしまうような、そういったあり方である。</p>

	<p>教育課程として魅力あるものが、校長先生が変わったから変わった、部活の顧問が変わったから、戦力が落ちたなど、それでは駄目なわけである。人事で変わるような、そういった学校の魅力ではないようなところで、いろいろな方面から築いていかなければいけないと思う。</p>
委員長	<p>モデル校という形で、見直しができるということも制度的には、優先しつつ、継続性を念頭に置いた取り組みが必要ということでした。 佐々木委員いかがか。</p>
佐々木委員	<p>学校の魅力、例えば、授業がどのように行われているのか詳しくないので、その辺は先生たちの意見でよろしいのかなと思う。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。 では次に(3)の地域の支援体制について、事務局から説明願う</p>
事務局	<p>(事務局より説明)</p>
委員長	<p>説明、感謝する。 また河本委員から願います。</p>
河本委員	<p>地域の支援体制というのは、制度というか全国募集においては、不可欠であると思う。逆に地域の支援体制が得られなければ、制度自身が不可能であると考えて良いと思う。実際その支援体制についても、教育活動への支援なのか、或いは全国から来た子どもの生活の保障、支援なのか、或いは学習環境といった支援なのか、そういったところも含めた形で、様々などういった支援体制を取るのかといったところを見る必要があると思うし、各市町村に協力を得なければいけないところだと思う。今のところは、受け入れた生徒に対する里親みたいな形で住まいを提供して、学校に通わせるというようなところで話を進めているが、場合によっては、極端な例かも知れないが、実際に他県にいらっしやって、母子家庭や父子家庭の方とか生活していくこともなかなか難しい方もいる。この新型コロナウイルスの影響で職を失った方も結構多いかと思う。 その家族も一括して支援しますよということで、親子共々来ていただいて、仕事を提供したり、住まいを提供したりして、そのことよって高校で学んだ後、そのまま地元で定住していただくという形で行くのも、地域の振興や人が集まるということに関しては、いい影響があるのかなと思う。 とにかく、地域の支援体制というようなところについては、各市町村と綿密な打ち合わせの上、しっかりとした予算化をしていただくことか可能かどうかというところは、実施にあたっての大きなポイントになるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>葛西委員、いかがか。</p>
葛西委員	<p>この件については、全国募集をするにあたって、一番重要な制度設計上、難しいところだと思っている。 このことについては、常に町の担当者と意見交換をしながら、また町でも財源部会、カリキュラム部会、それから広報部会の三つの分科会をつくって、定期的に県教委の方にも来ていただいて会議を開いているが、特にこの身元引受人も含めての、生徒の生活面のサポートをどのようにしていくかといった点が、非常に難しいところである。 先ほども少し話が出たけれども、生徒指導の案件、それから住民とのトラブルがあった際、誰が責任を持って、その生徒を指導していくのか。もちろん学校は、預かった以上、責任をもって教員が対応するけれども、通常だと学校と保護者が、車で例えれば両輪になって生徒指導していくのだが、保護者が遠くに離れて住んでいるといったことになれば、「すぐ来てください」と言っても、なかなか来られないというケースになったりする。先進校視察先の校長先生の話では、中には非協力的な家庭もあつたりとか、保護者が出てくるのではなくて、いきなり弁護士が出てきたりとか、そういう宮城では考えられない感覚の方もいらっしやるので、その面が一番難しいということである。 やはり失敗例も全国募集にはあり、失敗の多くは、県外から来た生徒がいろいろな問題行動を起こして、住民とトラブルになって、結果的にその学校の評判を落としてしまつて、地域からだんだん見放されてしまう。そして地域の子どもも入らなくなってしまうということがあつた。 この辺の制度設計については、先ほど河本委員からも話があつたように、常に町の方</p>

	<p>ともこの件については、今も話し合っているけれども、制度としてどうするかといったことについて、なかなか結論が出ないところである。常に町と連絡を取り合いながら、この件については制度設計を慎重にやっていく必要があると思っている。</p> <p>先ほど里親という話があったが、例えばそこでトラブルになって、そこに住むことができなくなってしまった場合、その生徒はどうするのか。もうその里親の家から出て行きなさいと言われたときに、ではどうするのか。町にはアパートは無い。どこに住ませせるのかということが、一番問題になっている。その件についても今、町の方でも考えている。</p> <p>色々な問題がケースバイケースであるだろうが、一番大事なのは、常に市町村と連絡を取り合いながら考えていくといったところが、一番大事であると考えている。</p>
委員長	早川委員，いかがか。
早川委員	結局、色々と全国で例があるので、色々資料を集めて、地域と綿密に対応を検討していくしか方法はないのかなと思う。
委員長	小山委員，いかがか。
小山委員	他の委員の言う通りだと思う 何か資料を見させていただくと、意外と、町長さんが、最終的には身元引受人を引き受けるというケースが多いと改めて感じた。
委員長	中里委員，いかがか。
中里委員	余計な心配かもしれないが、志津川のように、地域の熱い願いみたいなものがあって、一緒に作ろうとしているところと、この委員会で練って行って、仮に（志津川）以外でやっていこうとなったときに、地域の支援体制はどのようにお願いしていくか、提示していくかとか、そういったことというのはかなりテクニカル的に、難しいところがあると思う。そのような地域の願いとか、要求、希望とか、そういったものをすり合わせていくにはちょっと時間がかかるかなと思うので、そういった論点の取りまとめをお願いしたり、整理しなければならない。ある程度わかりやすくまとめていく必要があると思う。
委員長	佐々木委員，いかがか。
佐々木委員	委員の皆さんが言っているのと同じなのだが、里親制度に一般の家庭から行かせたりするのは心配かなと思う。いろいろな子どもたちがいて、親元を離れて、来ようとなったときに、里親でいい方に恵まれれば良いが、寮とかそういうようなものがあって、もしも駄目であればちゃんとこっちでまた受け入れますよというしっかりした体制が、例えばどこでやるにしてもあれば良いと思う。 やはり受け入れするところがしっかり整っている状況のモデルをもし作るのであれば、しっかりしたものがあって欲しいと思った。
委員長	こちらは非常に重要な、肝になるような、しかも微妙なということである。 では、次の広報について事務局より願います。
事務局	(事務局より説明)
委員長	予定時間あと5分になってしまったが、今後の県立高等学校の将来に関わる審議であるので、少し時間をオーバーさせていただきたい。 では、この件についても河本委員いかがか。
河本委員	今、私立学校については、広報といったところにかけては、非常に気を遣っているところがある。 実際のところ、例えば塾とか、予備校対象の説明会のときなどに、私たちが学校の説明をしに行くときには、その場に例えば奈良県とか、他県の私学もおいでになって、説明をされているということがある。 結局、その幅広い行動を、実質動いていかないと、なかなかそういったところで周知徹底していこうとしても難しい。このところでは、その地域地域に焦点を絞ってその地域のテレビのコマーシャルなど、テレビ会社や新聞社が共同した形で、色々手段を、お金はかかるが、そういった方向で広報している。 公立だと、中学校に行き説明したりとか、自分たちで回ったりしているのだが、なかなか中学校の先生にお伝えしても、そこから生徒、保護者に伝わるかというところがある。何とか直接、受験生の保護者、生徒に「こういう学校がある」というこ

	<p>とを伝える方法を模索していかないと、なかなか周知徹底は難しい。</p> <p>ましてや、他県に募集をかけるということになれば、その範囲が非常に広がるので、どこかの地域に学校コンセプトによっては、この地域に特に重点的ということはあるかも知れないが、広報については、実施する上において、相当綿密に考えていかないと、呼びかけた割には生徒が来ないなど、システムの議論に関わってくるので、非常に審議の慎重さが要求される場所である。</p>
委員長	葛西委員、いかがか。
葛西委員	意見というより要望であるが、先ほど県では地域みらい留学の年間80万円は、出すつもりがないような話であったが、地方創成推進交付金によって国から半額補助とか括弧書きであるけれども、こういったものを是非利用していただいて、何とかこの点でも考えていただきたいと思う。何卒よろしく願います。
委員長	早川委員、いかがか。
早川委員	ホームページとか活用するといっても、それを開いてもらわなければどうにもならないので、やはり何らかのものを作っていかねばいけないと思う。島根県等も立派なパンフレットをホームページに載せている。そうしたものを作っていくことが、今後必要になっていくのではないかと感じている。
委員長	小山委員、いかがか。
小山委員	<p>いろんな情報が今、手に取りやすくなっているが、子どもたちが手に取ろうとするきっかけみたいなことが重要なのかなと思うように思う。</p> <p>だから、何がいいとかというのはちょっとわからないが、今まで教えてきた子どもたちのなかに、県外をわざわざ受験するという子がいた。そういう子はやはり自分で調べてまでそこがいいということをアピールしてきた。</p> <p>なぜ、そのように思ったのかと聞くと、自分の興味あるものがそこにあることがわかったからというようなところであった。</p> <p>なので、どういう手段というのはなかなかこう、ここではわからないが、やはり子どもたちのきっかけになる何か、必要であると思っている。</p>
委員長	中里委員、いかがか。
中里委員	今の時代はネットでなければ話にならないので、プラットフォームの活用、登録料が年間80万円で活用できるということ、これくらいやってもいいのかなと思う。YouTubeで流すなど、そういったことを利用した方が、多分子どもたちの目にはかなり触れると思う。ホームページもいいが、なかなか教育委員会のホームページは開かない。たどり着くまでが大変である。
委員長	佐々木委員、いかがか。
佐々木委員	皆さんが言われているように、ホームページで探そうとなると、かなり難しいと思うのだが、ただ、そのプラットフォームを使うときに、例えば、募集する学校が三校あったとすると、県としては大きな負担になってしまう。やはり、できる範囲の、このぐらいまでだったらという、全額ではなく、そのうちの10%なら県で補助しますとか、県にも協力していただいて、実施しようと思って市町村が検討しているのだから、町の予算でおおまか賄えるぐらいでないと認められないと思うので、その辺、折り合いが付く金額を提示しても良いのではないかと感じた。
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>1校につき80万っていうのは、なかなか高額ということであるし、やはりこの、プラットフォームだけで何とかなることでもなさそうな気がする。</p> <p>では、その他、事務局のほうから願います。</p>
事務局	(事務局より、運用上の取り扱い事項(通学区域規則等)について説明)
委員長	<p>通学については問題ないということである。</p> <p>それも含めて、他に意見があれば賜りたい。</p> <p>河本委員いかがか。</p>
河本委員	制度上の変更も必要になってくるかもしれないが、色々話を伺って、制度として導入するかどうかというよりは、モデル校的なところでスタートして、そこについての検証をしてから、制度として取り入れていくかどうかというところを検討していった方がよいと思う。やはり学校、学校のそれぞれの事情、地域地域の事情等も様々であるし、

	<p>やはり100%の充足率を、定員を超えた学校について、対象にしなくてもよいのではないかと思う。その地域とか、少子化で学校の存続が、非常に危ぶまれるとか、そういうふうな事情を考慮した上での、制度の導入を検討していくべきではないかと思う。それに合わせた形で、それが可能と検証されるのであれば、制度上の変更を行っていくという形の流れがベストなのかなと考える。</p> <p>最後のまとめ的な話になってしまったが、有効性はこの場では検証はなかなか難しいと思う。なので、何かの形でスタートして様子を見て、そしてそれを継続していくかどうか、制度として取り入れていくかどうかを検討することが、非常に慎重かつ有効な方法ではないか。</p>
委員長	葛西委員，いかがか。
葛西委員	<p>全国募集については、地域からの要請で、県教委の方で制度を作るということもあるのだが、地域からの要請といったものが重要なのかなと思っているので、市町村からの要請があるところで考えて、モデル校といったものを設置して考えていく必要があると思う。</p> <p>また、先ほども話がでたが、「見直し」といったことについて3年、5年というような話が出たけれども、これについても3年にするか5年にするかといったところは、決めかねるけれども、それについてもしっかりと決めていければいいのかなと思っている。</p>
委員長	早川委員，いかがか。
早川委員	<p>基本的に全国募集というのは一つの要素として、やってみる価値はあるのかなというふうには、正直思っている。</p> <p>それから、そのところが導入するというふうになってくると、まだ不安要素があるので、その辺のところを河本委員が言ったように、やはりテスト校みたいなところを置いてやっていくことが一つなのかなというふうに思う。</p> <p>あくまでその地域のほうが今後、人が減っていくというところ、確かにその人が減るから、高校入試、全国募集をするのはいかがなものかという保護者の意見があるのは確かではあるけども、ただ、長期的なものを見れば、人がこなければ、その地域というのやはり、地域自体の存続というのが危なくなってくるので、あくまでその地域をある程度、活性化するための一つの策として、全国募集というのはいかがですかという感覚なのかなというふうに思っている。</p>
委員長	小山委員，いかがか。
小山委員	<p>皆さんがお話した通りだなというふうに思う。</p> <p>中学校の立場とすれば、最初に確認した、県内の生徒の為になるというのに繋がっていることがすごくありがたいなというふうに思う。</p>
委員長	中里委員，いかがか。
中里委員	<p>この問題というのは、目の前の子どもたちに直接関わってくる問題でもあり、同時にこれからの宮城に関わってくる問題だと思う。</p> <p>現実的、自主的或いはテクニカル的に詰めていくところは本当に必要なのはあるのだけれども、そこにこだわりすぎないで、時には全体を俯瞰したり、将来までの展望を考えると、そういったこれからの進め方が必要だと思う。</p>
委員長	佐々木委員，いかがか。
佐々木委員	<p>全国募集については、ぜひやってみたいというのがあるので、さっきも出たけれども、やはりモデル校、この学校であればこういうふうな形でというので、志津川高校と他三校ぐらいがあつて、内容を見ながら、検討する材料が欲しいと思った。</p> <p>その辺の検討材料があると、ここで話ができて、こういうのがいいなというのも見えてきたら、ありがたいなと思う。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。御審議ありがとうございました。</p> <p>それぞれの立場から、専門的な多様な意見をありがとうございます。</p> <p>これで審議については一通り終わりとさせていただきます。</p> <p>最後になるが、専門委員会の審議のまとめを高等学校入学者選抜審議会に中間報告することになる。資料6ページに従って確認をして、終わりたい。</p> <p>まず、全国募集の有効性については、失敗例もあるので、確実に有効だとは言えな</p>

	<p>い。そして検証するという事は現時点では無理である。</p> <p>しかし、モデル校のような形で、慎重に実施をしていく価値はある。そして本格導入して良いとまでの確信に至れないので、モデル校的な実施が良いであろうということである。</p> <p>そして積極的にやってみたいというような意見もあった。</p> <p>詳細なまとめについては、事務局の方で抜けのないようにしていただけたらと思うので、私の方としてはやや印象的な主要のものだけをまとめさせていただく。</p> <p>そして、導入対象となりうる地域、学校地域については、やはり地域の要請があつてこそであると。そして財政支援も含めて、やはり地域が主体にならなくてはいけない。そしてまた、生徒の受け入れの体制についても、やはり地域が責任を持たなくてはならない。ということで、導入対象となる地域が限定されていくであろう。</p> <p>そして制度上の位置付けとしては、モデル校実施、そして通学区域については問題なし。実施の継続に関しては、3年、5年というような辺りが妥当であろうと。</p> <p>しかし、見直しがあるとはいえ、長期に継続するというふうな志で、進めていかなくてはならないと、それだけの責任を持った、覚悟を決めた自治体で実施していただく。</p> <p>そして広報に関しては、このプラットフォームの80万円は、県としてはなかなか出せないけれども一部負担も検討いただきたいというようなことあるが、このプラットフォームだけで、何とかなるものではなく、中学生に届くというところは非常に難しい。</p> <p>そのため、ここも学校地域が、いろいろな動画配信、或いは、テレビ配信、コマース配信なども含めて、やっていかなくてはならないといったところでしょうか。</p> <p>あと、強調しておくべきことで抜かりがあれば、委員の皆様から御意見賜りたいと思うがいかがか。よろしいか。</p> <p>また追って、議事録が先生方のもとに届くと思うので、ご確認願う。</p> <p>では、以上をもって審議を終了する。</p> <p>それでは、今後の予定について確認する。</p>
事務局	(事務局より今後の予定を説明)
委員長	<p>親委員会である審議会にて、今回審議していただいた内容を報告させていただく。親委員会の審議会における検討内容にもよるが、引き続き3回目のこの専門委員会が実施されることも想定されているので、よろしく願います。</p> <p>それでは、本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しします。</p> <p>多様な意見に感謝する。</p>
事務局	<p>(進行交代)</p> <p>田端委員長、進行をありがとうございました。</p> <p>以上をもって、令和2年度高等学校入学者選抜審議会第2回専門委員会を終了する。長時間の御審議、ありがとうございました。</p>
	(閉会)